

## Neck plasty technique を用い、大きめの TRUFILL DCS で塞栓した wide-neck paraclinoid carotid artery aneurysm

医師名：松本 康史

施設名：広南病院

科名：血管内脳神経外科

■症例：42 歳、女性。Right paraclinoid carotid artery aneurysm。

■病歴：めまいの精査で偶然に発見された incidental aneurysm。

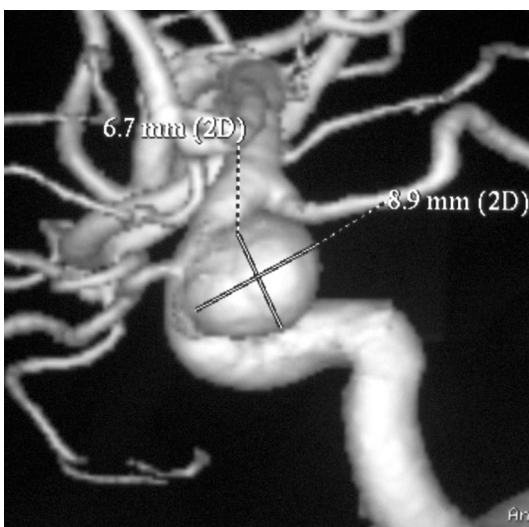
■術前検査：内側後方に突出し、長径は 8.9mm で短径は 6.7mm の側面像では卵型に見える paraclinoid carotid artery aneurysm。Neck は 5mm の wide-neck aneurysm。



Right ICAG, AP view



Right ICAG, lateral view



3D-DSA



Working angle

■ **治療適応**：intraclinoid level にネックがある paraclinoid carotid artery aneurysm であり、クリッピング術よりも瘤内塞栓療法が適していると考えられる。Wide-neck aneurysm ではあるが、neck plasty technique を用いて大きめの TRUFILL DCS を用いれば neck 部も密に塞栓できると考えた。

■ **血管内治療**

麻酔：局所麻酔

■ **使用コイル**：

挿入順	コイル	シェイプ	サイズ
1 <sup>st</sup>	DCS	Complex Fill	8x24
2 <sup>nd</sup>	DCS	Complex Fill	8x15
3 <sup>rd</sup>	DCS	Complex Fill	7x21
4 <sup>th</sup>	DCS	Complex Fill	7x13
5 <sup>th</sup>	DCS	Complex Fill	6x15
6 <sup>th</sup>	DCS	Complex Fill	6x9
7 <sup>th</sup>	DCS	Complex Fill	5x15
8 <sup>th</sup>	GDC	10-ultrasoft SR	4x6
9 <sup>th</sup>	GDC	10-ultrasoft SR	4x6
10 <sup>th</sup>	GDC	10-ultrasoft SR	2x3

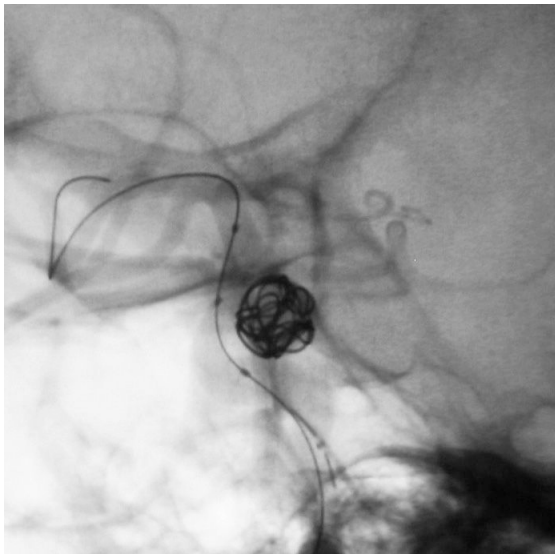
使用デバイス	ブランド名	サイズ・シェイプ	Company
ガイディングカテ	Guider	7F、90cm	Boston
マイクロカテーテル	Excelsior	1018	Boston
ガイドワイヤー	Synchro	14	Boston
バルーンカテーテル	HyperGlide	4x5	ev3
ガイドワイヤー	X-pedion	10	ev3

■ **方法のポイント**：

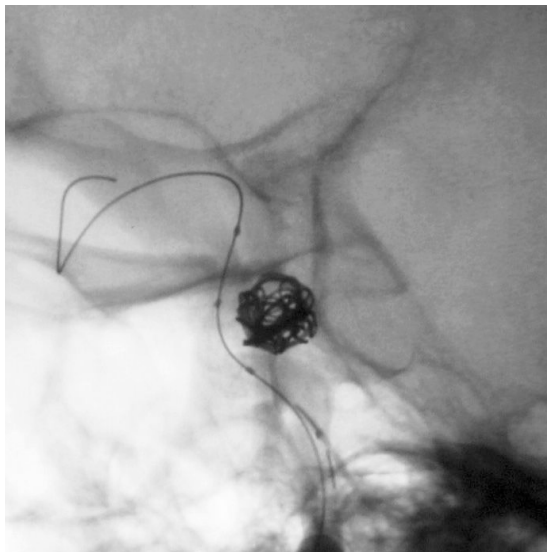
● TRUFILL DCS は動脈瘤壁に張り付くように巻く良い特性があるが、wide-neck aneurysm の場合はこの特性により親動脈側にコイルが出てしまう傾向がある。卵形動脈瘤の長径に近いサイズの大きめのコイルを選択し、neck plasty technique を用いてコイルがネック部にも十分に行き渡り、瘤全体の壁に張り付くようにコイルを巻いた。ネック部を密に塞栓するためにも安易なサイズダウンは行わず、必要に応じて同サイズのコイルを使用して neck plasty technique を毎回行い、大きめのコイルでの密な塞栓を心がけた。

● finishing coil としては TRUFILL DCS よりも柔らかくて SR 機構のある GDC 10-ultrasoft を使用したが、マイクロカテーテルは 18 サイズで太いことと、GDC のデタッチゾーンは TRUFILL DCS よりも固いことを念頭において置く必要がある。

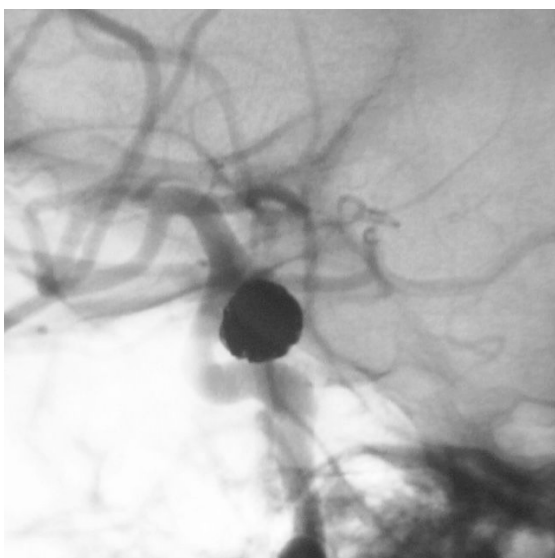
■ 術中術後画像：



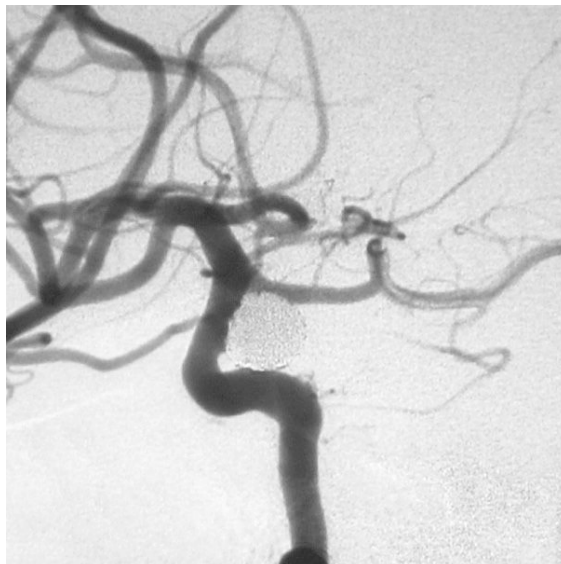
1<sup>st</sup> TRUFILL DCS



2<sup>nd</sup> TRUFILL DCS



last coil



Post embolization

■ 治療効果：

- wide-neck aneurysm であったが、ネック部に密に TRUFILL DCS を巻くことができた。TRUFILL DCS は卵型の動脈瘤全体に行き渡り、密な塞栓を行えた。術後経過は良好である。

■ 症例から学んだこと：

- wide-neck aneurysm に対しては大きめの TRUFILL DCS を選択し、親動脈に逸脱しないように neck plasty technique を活用すればコイルは広いネック部にも十分に行き渡り、より密な塞栓が可能になると思われる。

(ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社資料より、著者の許可を得て改変)